



平成 29 年 1 月 27 日
海上保安庁

次世代 VTS^{*1}に関するワークショップの結果

～将来の VTS に向けての論点が共有されました～

1 月 16 日から 20 日までの間、先進的に船舶の航行安全対策を推進している関係国の職員を日本に招き、VTS（Vessel Traffic Service：船舶通航支援等業務）に関するワークショップを開催しました。

本ワークショップでは、船舶交通の安全と効率化に重要な役割を果たしている VTS が十分知られていない現状を踏まえ、参加国の VTS における運用・技術・教育訓練の活発な意見交換が行われ、将来のより良い VTS に向けての論点が共有されました。

1. 参加国等

トルコ、オーストラリア、スウェーデン、イギリス、日本、IALA から、船舶の航行安全対策を所管する関係当局職員が参加しました。

2. ワークショップの成果

本ワークショップでは、出席者からの発表により、各国の VTS における運用・技術・教育訓練の現状が共有されるとともに、各国の VTS に関する取り組みについて意見交換が行われ、将来のより良い VTS に向けての以下の論点が共有されました。

○運用

- ・船舶交通における安全性と効率性の両立
効率性を向上させつつ安全性を確保すべきこと
- ・効果的なデータ及び情報の交換、共有及び管理
VTS により得られたデータ及び情報の交換、共有及び管理が船舶交通の安全と効率にとって重要であること
- ・VTS に対する認識
行政機関、船員及び一般国民における VTS に対する認識が向上されるべきであり、そのために VTS の効果に関する定量的な評価基準が検討されるべきこと

○技術

- ・AIS^{*2}及び新たなデジタル通信ツール
AIS データがいくつかの VTS において通信ツールとして使用されているとともに、VDES^{*3}のような新たなデジタル通信ツールが開発されつつあること

- ・意思決定支援ツールの新たな技術
航路予測やビックデータ使用等の新技術が意思決定支援ツールとして利用可能になりつつあること
- ・自律航行船
自律航行船の研究開発が開始されており、その実用化は船舶交通に大きな影響を与えるであろうこと

○教育訓練

- ・人的要素と進化する教育訓練手法
教育訓練手法の進化に当たっては常に人的要素への配慮が必要なこと
- ・VTS における訓練と資格
VTS における訓練と資格は、国際標準化とともに義務化が望ましいこと
- ・教官の訓練
VTS 管制官への適切な教育訓練の実施のために、教官が十分に訓練され、資格を有すべきこと

○その他

- ・行政機関、一般国民、船員等の期待
将来の VTS の進化のためには、行政機関、一般国民、船員等の期待が高まっていることを認識すべきこと

※1 VTS (Vessel Traffic Service : 船舶通航支援等業務) は、航行船舶の安全性と効率性の向上等を目的に、レーダー、AIS、VHF 無線電話等を活用し様々な情報を収集したうえで、航行船舶に対し入航時刻の指示、危険回避の勧告等、必要な情報を提供する業務です。

※2 AIS (Automatic Identification System : 船舶自動識別装置) は、船舶の識別符号、種類、位置、進路、速力、航行状態及びその他安全に関する情報を自動的に VHF 帯電波で送受信し、船舶局相互間及び船舶局と陸上の航行援助施設等との間で情報の交換を行うシステムです。

※3 VDES (VHF Data Exchange System : VHF データ通信システム) は、AIS の機能に加え、AIS より高速大容量の VHF データ通信機能を有する新たな海上のデジタルデータ通信システムです。



集合写真



ワークショップの様様